

令和5年度

教育課程特例校における特別な教育課程

【実施状況報告】

令和6年7月
箕面市教育委員会

1.概要

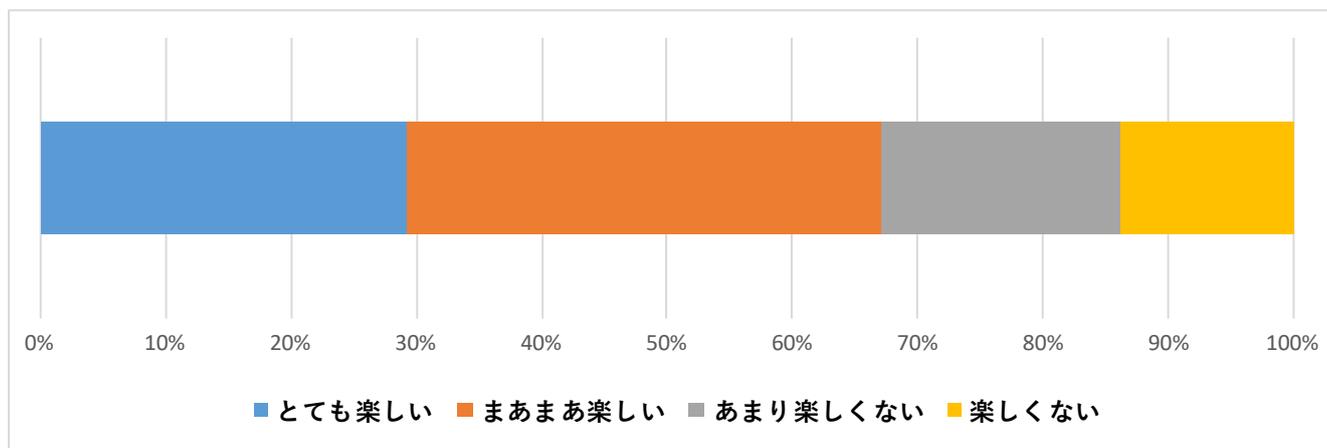
箕面市では平成27年4月から教育課程特例制度を活用し、箕面市立中学校の全学年において、「英語コミュニケーション科」を設定し、全ての学年で毎日英語に触れる取り組みを行っています。

市内の中学校では、年間140時間（週4時間）の外国語科（英語）に加えて、総合的な学習の時間から年間30時間削減し、「英語コミュニケーション科」の授業時数に充てています。英語コミュニケーション科を週に1時間程度設定することで、毎日英語に触れられる環境作りを行うことができています。特別の教育課程を実施することで、9年間を通して子どもたちが毎日英語に触れられる環境作りを行っています。

2. 箕面市の生徒アンケートの結果

○英語を使ってコミュニケーションを図ることは楽しいと思いますか。

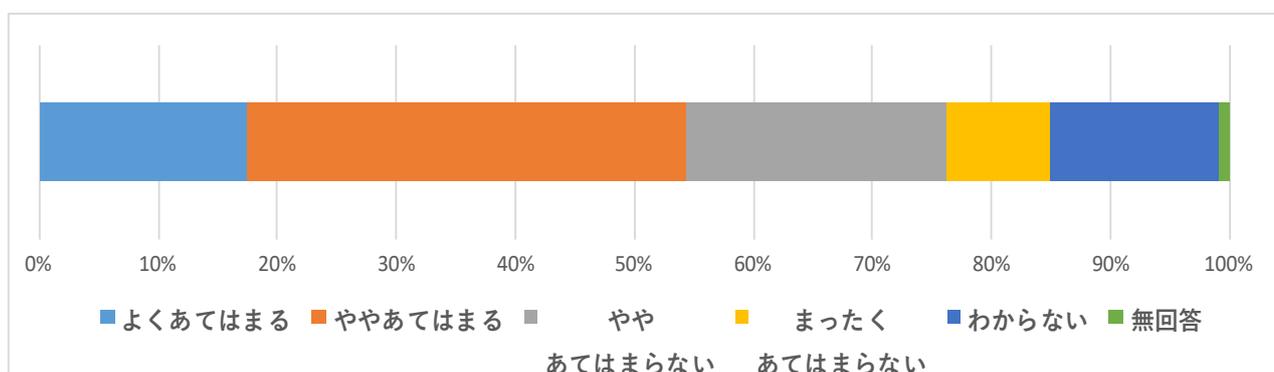
	とても楽しい	まあまあ楽しい	あまり楽しくない	楽しくない
1年生（7年生）	23.4	38.4	21.1	16.5
2年生（8年生）	27.7	39.5	17.2	15
3年生（9年生）	36	34.6	18.5	9.7
平均	29	37.5	18.9	13.7



3.保護者・学校関係者からの評価

○子どもは、英語でやり取りしたり、発表したりすることに、前向きに取り組んでいる。

	よくあてはまる	ややあてはまる	ややあてはまらない	まったくあてはまらない	わからない	無回答
合計	17.4	37	21.9	8.6	14.2	0.9



- ・英語コミュニケーション科の設定により、生徒たちが場面・状況に応じて、日常的な話題や社会的な話題について、英語で情報や考えなどを理解したり、これらを活用して表現したり伝えあったりする場面が今まで以上に多くみられるようになりました。
- ・英語コミュニケーションの授業は、ALT と英語教員がオールイングリッシュで授業を展開していくので子どもたちが英語に慣れ、入試などのリスニングテストに強くなります。
- ・校内において ALT と子どもたちが手を振りながら気さくに話しかけ、日常的に簡単な英語を使ってコミュニケーションを取ろうとするなど、英語に親しんでいる様子が伝わります。
- ・生徒は、英語の授業と英語コミュニケーションの授業を通して、毎日英語に触れる機会があり、特に読む・聞く力が伸びているように感じます。英語の授業では主に知識を身に着け、英語コミュニケーションの授業では得た知識をアウトプットすることで、英語をコミュニケーションツールとして活用するサイクルができています。

4.今後に向けて

- ・自ら考え、表現する活動を通して、自己表現の機会を多くする。また、英語への興味関心をより深めることによって、学習内容の定着につなげていきます。
- ・英語コミュニケーションに慣れ親しむことは、子どもたちのスピーキング能力・リスニング能力を高めるために大切なことです。英語コミュニケーションの授業は ALT を中心に授業を展開するため、子どもたちの英語への興味・関心を高めるよい機会になっています。今後、子どもたちが英語に慣れ親しみ、英語を活用できる能力を高め、国際社会で活躍できる生徒を育てていきたいです。
- ・これまでの取り組みに加えて、対話力・発問力を養っていきたいと考えています。具体的には、スピーチ発表の後に質疑応答を行う、インタビューテストで ALT に質問する等、やりとりを活発に行うことを意識していきます。これらの活動を通して、生徒が生活のあらゆる場面で、自然で状況に応じたやり取りや問題解決ができることをめざしていきます。